

**1 研究テーマ****自他のよさを認め合える生徒の育成**

～よりよいリレーションの形成とルールの確立を目指した授業実践を通して～

**2 テーマ設定の理由**

## (1) 本校の教育目標から

本校の教育目標は次のようになっている。

《地域の教育力をベースに》

～夢があり 心があり 力がある生徒の育成～

この学校教育目標を受け、生徒一人一人が自分の将来の夢や、学校生活、学習面等に対する目標を持ち、その実現に向かって積極的に取り組もうとする力の育成を目指していききたい。そのためには、生徒個々が自分自身をしっかりと見つめ、他の様々な立場の人たちから学ぼうとする姿勢を育てることが必要であると考え。さらに、生徒が一番長い時間を過ごしている学校生活、その中でも授業時間において、基盤となる学習ルールの確立と互いの良い関係を築くような取組を行っていくことで、自他のよさを認め合い、自分の夢実現に向かって努力していく生徒が育成されるのではないかと考えた。

さらに、家庭や地域との連携を図りながら、このような取組をすべての教育活動において実施していくことにより、生徒一人一人の「生きる力」の育成につながり、教育目標実現が図られると考えた。

## (2) 本校生徒の実態から

今年度の標準学力検査の結果を総合的に見ると、

【昨年度】学校全体の学力偏差値は51.4と昨年度（一昨年度）の52.5から下降している。また、成就値の低下も目立つため、学習意欲を引き出す指導が課題である。学年間で見ると、2年生（現3年生）の学力・成就値が低く、重点的に指導する必要がある。

また、昨年度の県学力調査の結果を見ると、県平均と比較し、3年生の定着率に課題が見られる。また、教科によっても差が生じており、全教科で共通して実践していくものについて研究を進めていく必要があると考える。

さらに、次のような本校生徒の実態がある。

- 授業や課題にはおおむねまじめに取り組むことができるが、家庭学習が定着しておらず、量・質共に向上させる必要がある。
- 各学年とも、他者とのコミュニケーションを苦手としている生徒が数名おり、授業中に自ら挙手して発言する生徒も固定化しつつある。
- 集団生活上、心の育ちに課題のあると考えられる生徒が数名見られ、学校生活の様々な場面において、個別の対応が必要である。

このような実態を踏まえ、授業を通して、心を育てることに力を入れて取り組むことが、生徒の様々な力を伸ばしていくことにつながると考え、本研究主題を設定した。

**3 研究テーマについて**

## (1) 自他のよさを認め合えるとは

自分自身や他の人を大切に思うことができ、それを言動に表すことができる状態のこととする。「よさ」とは、他から見て、「その人らしいところ」や「考え方のすばらしいところ」であり、自分からみて「自分で自分を好きになれるところ」「自分で誇りに思えるところ」ととらえる。また、活動の中で「よさ」をとらえるとき、結果の「よさ」だけにとどまらず、活動の過程における「よさ」にも目を向け、個人個人の伸びやがんばりにも着目することが大切であると考え。

## (2) ルールとリレーションについて

ここでの「ルール」とは、授業における「ルール」であり、学級内の生徒一人一人が気持ちよく学習に向かうことができるような学習規律のことである。同時に、学習環境を整えることも

授業の基盤となる重要な要素であると考える。

また、ここでの「リレーション」とは、人間関係を意味しており、よりよい人間関係を築いている集団の状態を形成できるような取組を実践していくこととする。

#### 4 研究仮説について

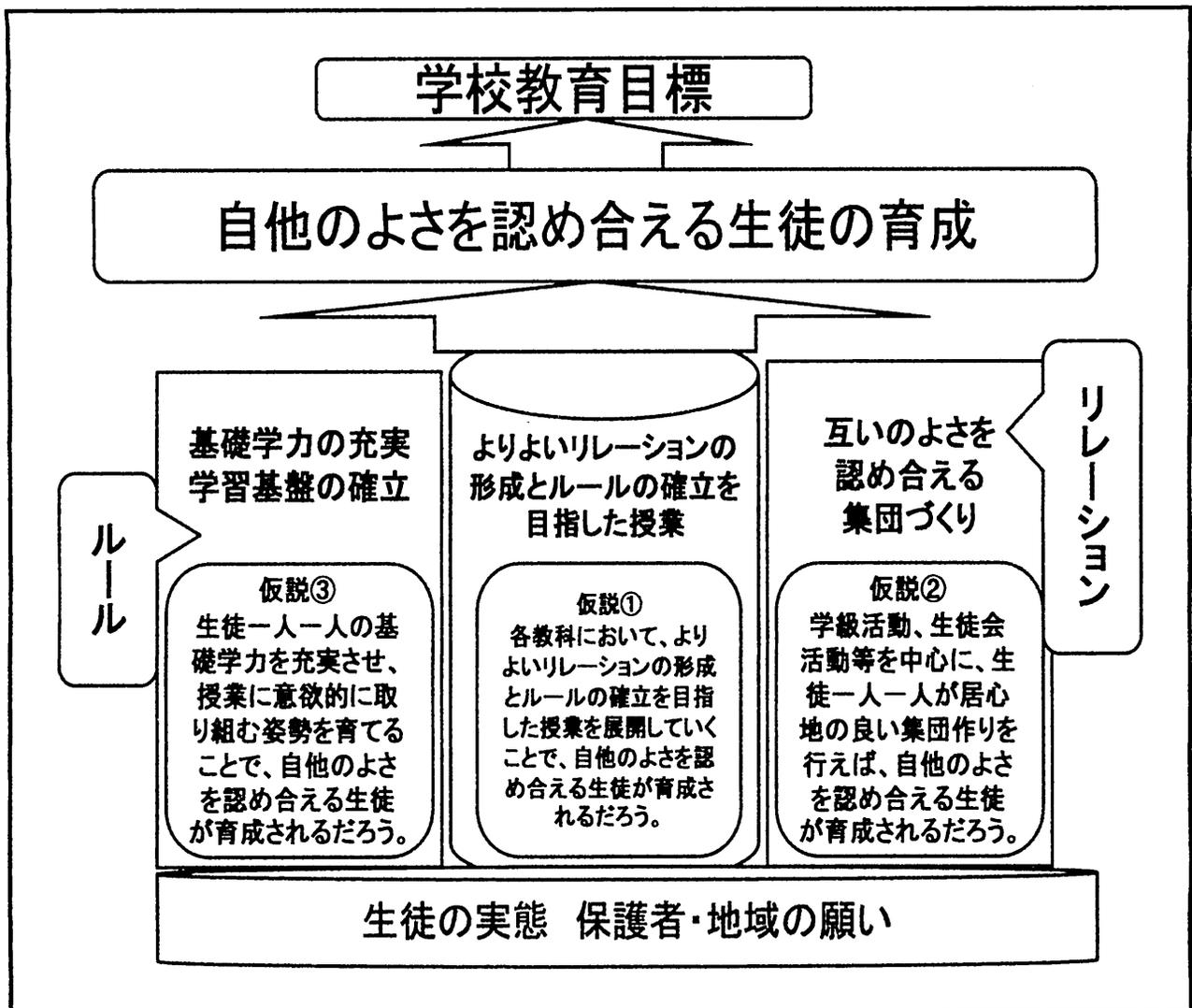
##### (1) 研究の仮説

- ①各教科において、よりよいリレーションの形成とルールの確立を目指した授業を展開していくことで、自他のよさを認め合える生徒が育成されるだろう。
- ②学級活動、生徒会活動等を中心に、生徒一人一人が居心地のよい集団作りを行えば、自他の良さを認め合える生徒が育成されるだろう。
- ③生徒一人一人の基礎学力を充実させ、授業に意欲的に取り組む姿勢を育てることで、自他の良さを認め合える生徒が育成されるだろう。

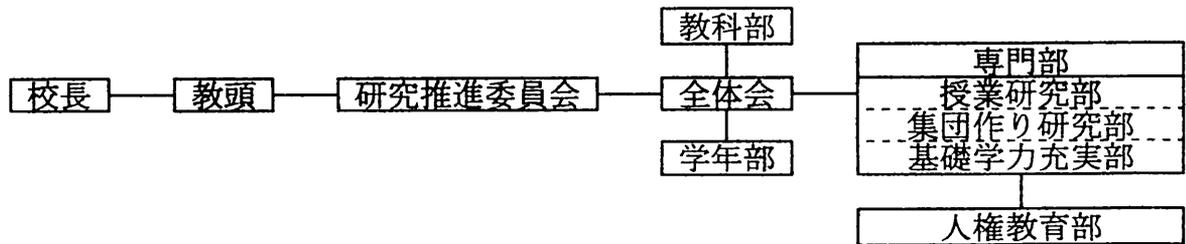
##### (2) 仮説の検証

- ・「Hyper Q-Uテスト」の変容で検証する。
- ・アンケート調査（生徒・保護者・地域住民）の変容で検証する。
- ・研究授業後の生徒の変容で検証する。

#### 5 研究の構想



6 研究組織



(1) 組織の構成

- ア 研究推進委員会…校長、教頭、主幹教諭、教務、研究主任、専門部長
- イ 全体会…全教員
- ウ 教科部…各教科担当
- エ 学年部…各学年担当
- オ 専門部…授業研究部 (チーフ…宮崎、 )  
( )  
集団作り研究部 (チーフ…堀、 )  
( )  
基礎学力充実部 (チーフ…中原田、 )  
( )

カ 人権教育部…全教員

(2) 組織の役割

- ア 研修推進委員会…研修内容の企画、提案、まとめ 等
- イ 全体会…研修内容の確認、共通理解、共通実践
- ウ 教科部…研究授業 (大研) 指導案の検討 等
- エ 学年部…研究授業 (大研) の計画、準備、運営、反省 等
- オ 専門部

部名	重点研究事項	具体的実践事項案
授業研究部	○よりよいリレーションの形成とルールの確立を目指した授業に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一中版の授業スタイルの研究と提案を行う。</li> <li>・授業者一人一人の授業力アップのための研修を企画し実践する。</li> <li>・効果的な研究授業・授業研究会について考え、提案する。</li> </ul>
集団づくり研究部	○互いのよさを認め合えるような集団作りの研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いを認め合うような学級作りの研究と提案をする。(短学活でのエクササイズ等も含む)</li> <li>・生徒会活動を中心とした互いの良さを認め合えるような活動の工夫と提案をする。</li> </ul>
基礎学力充実部	○基礎学力の充実と学習基盤を確立させるための取組に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の充実を図るような学校全体での取組に関する提案をする。(朝自習・朝読書の充実、ノ一部活デーを活かした取組等)</li> <li>・充実した授業を実施できるような学習規律等の徹底に関する提案をする。</li> <li>・放課後補充学習等の取組等、家庭・地域との連携を図った学習基盤の確立に関する提案をする。</li> </ul>

カ 人権教育部…人権教育に関する提案、職員への研修、不登校対策 等

(3) 研究授業

- ア 大研…○今年度6回実施。  
○事前研は研究推進委員会を中心に行う。  
○全員で参観。他の学校(小・中・高校)や地域の方々へも参観を呼びかける。  
○指導案は細案とする。授業当日の校内研修で授業研究会を実施する。
- イ 小研…○全員1回ずつ実施する。(大研実施者以外)  
○各月3本以内で1月までに終了する。  
○指導案は細案・略案どちらでも可。

7 研修年間計画

月	第1週	第2週	第3週	第4週	小研予定
4	――	――	――	30 全体研修	
5	7 専門部会	――	――	28 全体会 専門部会	
6	4 授業研究 ①	11 現職研修 カウンセリング・ICT	18 全体・現職研修 人権教育研修・特別支 援教育研修	――	
7	2 授業研究 ②	9 全体・部 会研修 一学期のまとめ	――	――	
8	――	21 全体会 集団づくりQ-Uテスト分析研修 現職研修 性教育・食育 コミュニティ・スクール	――	――	
9	3 専門部会 部会研究	――	――	24 授業研究 ③	
10	1 専門部会 部会研究	8 授業研究 ④	15 専門部会 部会研究	――	
11	5 授業研究 ⑤	――	19 専門部会 部会研究	――	
12	3 授業研究 ⑥	――	17 全体会・ 専門部会 研修のまとめ	24 全体会・ 専門部会 研修のまとめ	
1	――	14 全体研修 人権教育 研修	21 全体会 学力向上成果発表会 に向けて②	――	
2	4 全体会 学力向上成果発表会 に向けて③	7 学力向上成果発表会	18 専門部会 部会研究 (今年度のまとめ)	――	
3	――	11 ――	18 全体会 年間反省と来年度の 方向性	――	

	担 当
全体会	宮崎 (ハイパーQ-Uテスト分析研修については鳴海)
専門部会	各専門部長
授業研究	授業研究部 (チーフ：宮崎、 )
人権教育研修	富高
現職研修	ICT・・・坂口 食育・・・堀、柄田 性教育・・・草野 コミュニティ・スクール・・・宮崎 カウンセリング・・・鳴海 特別支援教育・・・市川 不祥事防止・・・橋口、吉本、中原田

※不祥事防止研修は適宜実施していく。